

4. グループディスカッション

《ディスカッション内容》

グループに分かれて、社会人のゲストの皆様から、自己紹介・自身の体験談をお話しいただきました。その後、学生からの質問を受け、フリーにディスカッションをしました。ディスカッションの際には、情報産業労働組合連合会の社会人の方がファシリテーターとしてご協力してくださいました。

★仕事と学業A★

メイン社会人：山中 恵介氏

ファシリテーター：白濱 恵美子氏



＜参加学生人数＞

5名

＜ディスカッション内容＞

仕事をしながら定時後に大学院に通う山中さんを中心に、主に仕事と学業の両立のこと、学ぶ理由、進路選びについて話し合いました。

普通の人では両立できないのではという意見に対し、両立云々ではなく、やりたい事に主体的に取り組んでいるのが今だと語られた山中さん。仕事を効率的にこなす工夫もなされるようになったそうです。また職場の方の理解が得られることは大きく、だからこそ学んだことを会社に還元したいと考えていらっしゃいました。

学生時代に明確なビジョンをもつことは難しいですが、自分の希望が叶わなかった時も会社を辞める、異動するというような発想だけでなく、様々な選択肢を考え、広い視野を持って行動することが大事だという結論に至りました。

＜感想＞

両立という言葉にプレッシャーを感じている参加者もいましたが、目的は「両立」ではなく「やりたい事、またすべき事ができること」です。WLBの実現には、本人の行動が必要でしー筋縄にいくことばかりではないようです。「『自分としてどうありたいか』『何をしたいか』を絶えず考えることが大切だ」という意見がとても印象的で、その考え方についても皆で意見を出し合いました。短い時間でしたが、多様な考え方を知る、良い機会になったと思います。

(とりまとめ:友廣礼子)

★仕事と学業 B★

メイン社会人：伊達 ミツキ氏

ファシリテーター：若林 博司氏



<参加学生人数>

9名

<ディスカッション内容>

伊達さんは製薬会社のMRという仕事をしながら大学院に通学されています。大学院には、女性が働くモチベーションを保ち続けられる人材育成を行いたいという思いから研究を進めているということです。今回は、どのように仕事と学業を両立させているのかをお聞きしました。

まず、会社の反応を伺うと、仕事で成果を出せば特に問題はないそうです。伊達さんはクライアントの方の理解や信頼を得ることで、営業成績を落とさずに大学院に通うことができているということです。

次に、両立するとき心がけていることを伺うと、仕事と院の頭の切り替えだと答えてくれました。伊達さんは、仕事の時間は限られているので、ある程度あきらめることも必要だと考えているそうです。

最後に、両立するためにはどんなことが必要かと尋ねました。仕事、勉強、遊びを充実させ、互いに良い影響を与えあうことが重要だと教えていただきました。

<感想>

伊達さんのお話を聞いて、仕事以外の違う軸を持つことの大切さがわかりました。仕事以外の軸を持つことで、仕事を色々な視点でみることができ、成果へと繋がっていると感じました。伊達さんは、大学院で勉強したことを仕事にどう生かせるか常に考えて勉強をされているそうです。このように多様な視点を持って、私も仕事をしていきたいと感じました。

(とりまとめ：竹島彩)

★仕事と育児 C グループ★

メイン社会人：東 浩司氏

ファシリテーター：松田 康子氏



<参加学生人数>

10名

<ディスカッション内容>

C グループでは、学生が子育てについてどう感じているのか、また実際に仕事と育児を両立されている東さんの経験を伺い、WLB についてなど幅広い議論をしました。

学生は仕事と育児を両立したいと考えてはいるものの、まだ現実味がなく不安も多いようです。特に金銭的な不安が大きいようですが、東さんは「お金の問題よりも“本気かどうか”が重要！」とおっしゃっていました。子どもができると生きることに覚悟ができ、自分を律することができる。東さんは子育てをすることによって、残業をなるべくしないよう仕事を効率的に行い、早く帰る意識を持たせたそうです。

また、WLB を図ることや理想の母親・父親像を意識しすぎず、柔軟な考え方をもって挑戦することが大切だということをお話ししました。

<感想>

東さんが「2人目の子どもを産むかどうかは、男性の育児への参加が要になる」とおっしゃっていました。「育児は女性」のイメージが強いけれど、育児を通して得られることは男女関係なく大きいと思うので、男性が育児に参加しないのはもったいないと感じました。

“仕事も育児も、好奇心を持って臨めば必ず新たな発見がある”ということを感じるこ
とができたグループディスカッションでした。 (とりまとめ：田澤沙織)

★仕事と育児 D★

メイン社会人：横山 純子氏

ファシリテーター：坪井 宣之氏



<参加学生人数>

9人

<ディスカッション内容>

仕事と子育ての両立についてのグループでした。仕事はお金を得るためだけでなく、自分らしく働くために、好きな仕事をやっていきたいという思いから、両立するという事です。両立のためにどのような工夫をしていたのか、ママ友の話、夫との家事・育児分担や共働きで夫婦分担についての相互理解について、仕事の引継ぎや上司との円滑なコミュニケーションの工夫など、女子学生の疑問に対して答えていただきました。

特に、夫との家事・育児分担については、大変というイメージがありますが、実際に子育ては楽しいということです。パートナーには、たくさん経験し感じてもらう工夫が必要で、ほんのちょっとしたことでも頼み、それを手伝ってくれるだけでも、女性にとって仕事と育児が両立しやすくなるというお話でした。

<感想>

学生が不安に思っていることを素直にぶつけ、みんなで考えられたのは良かったと思います。仕事では、制度を活用できる環境を作ること、さらに仕事と生活の中で関わる人とお互いにコミュニケーションを取り合うことが両立には大切だと分かりました。その中でたとえ困難な状況に直面しても、柔軟に考え対応していく力をつけていけば、キャリアビジョンが描きやすくなると思いました。短い時間でしたが、内容の濃い議論ができて有意義でした。

(とりまとめ：海老澤梨奈)

★仕事と育児E★

メイン社会人：塚越 学氏

ファシリテーター：江間 佐知子氏



<参加学生人数>

8名

<ディスカッション内容>

初めに自己紹介を行い、今回のディスカッションで話したいことを各自発表し、共有しました。まず、育児環境について話し合いました。社会人の方が指摘するには、企業の50~60代の育児をしていない男性がネックであり、育児に興味のある30代との世代間ギャップがあるとのことでした。また、男性だけでなく、女性社員同士のわだかまりにも問題があるそうです。

次に、育児の進め方について話し合いました。多くの日本の女性は、里帰り出産をするため、母親が子どもの主導権を握り、ゲートキーパーになってしまっている現状があります。男性にとっては最初の1カ月が肝心であり、育児のスタートラインを一緒にするために、育休取得が必要となります。そして、ママは家事をしているパパを褒めてあげることが成功のカギとのことでした。

<感想>

育児をするために育休・有休合わせて2カ月も休暇を取っている塚越さんの話は、とても興味深かったです。子どもを持ち、育児をすることで、世界が2倍も3倍も広くなるとおっしゃっていました。この言葉は、育児に関わろうとする自分の考えの指標となりそうです。また、家庭を持つことで、男性の意識や生活が変わるのではないかと思います。育児が趣味になり、奥さんと子どもを幸せにできる父親になりたいです。

(とりまとめ：柴田貴実)

★仕事と育児F★

メイン社会人：持田 聖子氏

ファシリテーター：井ノ口 弘記氏

<参加学生人数>

10名



<ディスカッション内容>

主に2つのことについて話をしました。1つめは、会社の風土の問題でした。個人の意識としては、大きく変化し、良くなっているが、会社の制度の中には、使用されていないものも多くあるということです。環境と共に、風土も変化していかなければならない点に、参加したみんなが共感していました。そこでは、コミュニケーションの重要性も挙げられていました。

2つめは、保育所の問題です。女性の社会進出が進む一方で、待機児童の問題が大きくなっています。育児を経験した持田さんの経験談により、実感の湧くお話をお伺いできました。

最後に「自分にはこのルートしかないと思わず、3年位先を単位として、自分の公私のプラン・希望を考え、パートナーと相談しながら、自分がしたいこと・できること・優先すべきことを考え、組み立てていくのがいいかと思っています」とお話ししていただきました。

<感想>

このグループディスカッションを通して、やはり会社の風土の問題について再認識しました。現場で働く社会人の方からのお話で、若い人は、ワークライフバランスの認識は強いのですが、団塊世代の方はあまりなじみがないようです。上司が団塊世代の方だと理解してもらうことが難しい面もあるようです。だからこそ、こういった方とのコミュニケーションを図り、お互いが理解し合うことが必要だと実感しました。

(とりまとめ：山川友美)

★仕事とボランティア活動・趣味G★

社会人ゲスト：大洞 ゆき氏

ファシリテーター：兼井 正英氏

<参加学生人数>

9人



<ディスカッション内容>

ゲストの大洞さんは、銀行に勤務しており、週末などの時間を利用してアルペンスキーチーム、フラッグフットボールチームに所属しています。

大洞さんから週末を趣味に費やし充実させることで仕事も頑張れる、職場だけのコミュニティーに浸らないことで頭をリセットできるとのお話をいただきました。学生達もこの考えに共感を示し、仕事と違う環境をどう見つけるかということを中心に話し合いました。

話し合いの結果、仕事を楽しくいきいき働く、いろいろなところでネットワークを広げる、自らのビジョンをしっかりと持つ、以上の3つのポイントが挙げられました。自分のやりたいこと、ビジョンをしっかりと持ち、やるべきことから一生懸命取り組むということで意見がまとまりました。



<感想>

いろいろなこと積極的に取り組んでいる人は、いきいきとしているという印象を受けました。自分のやりたいことのビジョンをしっかりと持つことが大切で、両立という言葉は後からついてくるものだと感じました。大洞さんのように仕事も120%、スポーツも120%、やりたいことに全力で取り組むことによって、人生は充実したものになってくると思いました。
(とりまとめ：小松洋介)

★仕事とボランティア・趣味H★

メイン社会人：小田 敏弘氏

ファシリテーター：鈴木 綾子氏

<参加学生人数>

7人



<ディスカッション内容>

Hグループは、仕事と趣味の両立がテーマでした。小田さんはシステム企業にお勤めで、週末は所属するオーケストラ団体で活動されています。ファシリテーターの鈴木さんはNTTで法人営業をしながら大学院でワーク・ライフ・バランスの勉強をされています。主に仕事と趣味や学業の両立のためには周囲の理解が重要であるという話を中心に、実際どのように両立しているかの実体験を踏まえながら、社会人の立場から学生にアドバイスをいただき、学生が思っている社会像や両立への期待・不安の気持ちをぶつけました。

何事にも前向きに考え、相手のこともしっかり考えることが大切だという意見もありました。ディスカッションに参加した学生からも仕事とその他のものをうまく両立するために、仕事でもやることはきちんとやって、経験の中で色んなものを身につける大切さについて議論がなされました。



<感想>

仕事と趣味の両立を考える前に、自分のことをきちんと管理することが大切であることがわかりました。入社 1、2 年目はがむしゃらに仕事を覚え、会社に慣れることも必要です。その上で計画性を持って仕事以外で両立したいものを決めることが大事で、優先順位をきちんと決めながら、いろいろな人と関わりコミュニケーションを深めるべきだと思いました。

(とりまとめ：金聖裕)

★仕事とボランティア・趣味I★

メイン社会人：高畑 志野氏

ファシリテーター：横倉 勝範氏

<参加学生人数>

10 名



<ディスカッション内容>

I 班では、仕事とボランティア活動・趣味を両立されている、高畑志野さんをゲストに迎えお話を伺いました。高畑さんは、広告代理店営業という仕事をしながら、週末には陸上教室のボランティアコーチをされ、学生時代からの陸上の経験を生かして子どもたちに接しておられます。また、ボランティアだけでなく、絵を描くことも趣味とされているそうです。

「なぜ多くのことを両立できるのか」という学生の質問に対し、「最初から両立するのは難しいけど、徐々に自分のペースがつかめてきます。仕事と生活は連動しているから切り離すことはできないし、並行してやっていくと調子がいいです。好きなものをいっぱい持っている、オンとオフがしっかりつけられて仕事も生活も楽しいですよ。」と話してくださいました。このように I 班では質疑応答の形で、高畑さんに WLB の意義やその方法など多くのことを伺うことができました。

<感想>

高畑さんのお話を聞き、仕事も生活もいきいきとさせるには、やりたいことを諦めず挑戦していくこと、その過程で出会う多くの人に刺激を受けたり与えたりすることが大切であることを学びました。仕事・ボランティア・趣味の両立は厳しいのではないかと考えていた多くの学生が、高畑さんとお話することで、積極的に行動・挑戦していこう！とWLBに対する意識を変えることができたと思います。

(とりまとめ：岩瀬悠希)

★仕事とボランティア・趣味J★

メイン社会人：三上 真吾氏

ファシリテーター：高橋 雄一氏



<参加学生人数>

8名

<ディスカッション内容>

私たちのグループでは、仕事とボランティア活動・趣味の両立をテーマに話し合いました。メイン社会人の三上さんは、モデルの仕事をする傍ら、サッカーコーチやPTA活動などの活動もしている方です。

三上さんは、「自分は好きなことを仕事にできている」とおっしゃっていました。そのことを切り口に、好きなことを仕事にするのは難しいことなのか、好きなことを仕事するために学生時代にすべきことは何かを議論しました。学生たちは、好きなことを仕事にできる人はほんの一握りの人たちだと考える傾向にありました。しかし、社会人の方々から、学生時代にとことん好きなことをやりつくせば、自然と自分が好きな仕事を選び、就くことができるのではないかをいうご意見をいただきました。

グループのまとめとしては、学生のうちから好きなことをやっていたら、社会に出ても充実した生活が送れるだろうということでした。

<感想>

今回のグループディスカッションで私が感じたことは、こうやって学生と社会人が同じテーマについて議論しあうことが、多くのことを吸収できる機会であったということです。私は、これまでワークライフバランスを考えるにあたって、育児との両立や女性の働き方を中心に学んできたため、今回の三上さんのような趣味と仕事の両立をしている方のお話はとても新鮮でした。このグループディスカッションを通して、ワークライフバランスをこれまでと違った視点から見ることができた気がします。楽しく議論できました。

(とりまとめ：鈴木麻子)